

第3回庄原市学校適正配置検討委員会 議事録（概要）

平成28年8月8日（月）

9：30～11：50 本庁舎3階防災対策室

【出席者】

（委員） 林委員（委員長）、藤谷委員（委員長職務代理者）、廣澤委員、定宗委員、竹川委員、
宮本委員、加藤委員、森永委員、井上委員、三上委員、堀江委員
（事務局）牧原教育長、片山教育部長、山田教育総務課長、中重教育指導課長、宗綱総務係長、
定光学校管理係長、加藤主任主事、佐々木指導主事

〔欠席〕 田坂委員、藤崎委員

〔傍聴者〕 2名（報道関係者）

（9：30 開会）

- 1 開会（委員長あいさつ・教育長あいさつ）
- 2 前回会議（H28.7.4開催・第2回）の議事録報告

3 意見交換

（1）資料説明等

（事務局より資料2～3について説明）

議長 今の説明について、何か質問や意見等はあるか。

委員 この資料2によると、現在普通教室に冷房設備がある小学校は3校だけのようだが、今後はどのように整備していくのか？

事務局 冷房設備を整備すべき学校が多数あるため、整備の優先度をつけ、計画的に対応していく予定としている。

委員 整備の優先順位はどのように決定するのか？

事務局 気温に関係するため各校の標高や児童数などをもとに検討している。

委員 この表内の構造等というところに記している「RC造」とは何か？

事務局 「RC造」とは「鉄筋コンクリート造」のことで、現在建物の構造として多く用いられている工法である。

委員 鉄骨造とRC造の違いは？

事務局 鉄骨造は、太い鉄骨を構造材として用いる工法。RC造は、コンクリートの構造材の中に鉄筋を入れて構造を強化する工法である。

委員 この庄原市役所庁舎の構造は何か？

事務局 R C造である。

委員 各校の耐震性はどうなっているのか？

事務局 当市では早い段階で建物の耐震性を確保する取り組みを行い、昨年度に市内小中学校において耐震化率100%を達成した。

委員 小学校への冷房設置は、もう事業の実施が決定してこれから設置順を決めていくのか？それとも事業の実施自体がまだ決まっていないのか？

事務局 現時点では事業の実施自体が決まっていない。

(2) 授業の状況について

(ビデオ上映前、事務局より、前回の学校視察について、今回のビデオ上映の趣旨について説明。ビデオ内容は、①複式3・4学年：算数科、②複式1・2学年：算数科、③単式(25人以上)5学年：国語科の3つの授業。ビデオ上映約30分間)

議長 今回のビデオについて、「授業の様子」「単式学級・複式学級の比較」「子供の様子」等、委員が持たれた率直な感想等を出してもらい意見交換をしたい。

委員 小規模校は、先生の教える能力、児童の学ぶ力量に左右されると思う。ビデオでは複式学級を2校見たが、先生が苦勞して教えられていると感じた。また単式学級のクラスでは、1割くらいの子が授業に取り残されているようにも見受けられた。

複式学級のために児童の学力が見劣りする結果につながるのであれば考えるべきだが、良し悪しは先生の力量による部分もあると思った。ビデオを見る限りでは、スムーズに授業が進んでいる複式学級もあるように思えた。

議長 ビデオ内の複式学級の授業では、先生－子供、子供－子供の関係性がそれぞれあると思った。複式学級の2クラスは、多くの参観者がいたことも考慮して意見をいただきたい。

委員 前回の会議でも、委員の方から複式学級の経験談を聞いたが、良い意見が目立った。同じ複式学級での経験談でも、悪い結果として受け止められた方の意見も聞いてみたい。

国の適正配置の手引きにも記されているように、もう少し地元地域の意見も資料として出していただければ、こちらも意見を出しやすい。

また、学級崩壊のことも聞くことがある。ビデオ内でも落ち着きのない子もいた。もう少し、参観者のいない日常の風景も見てみたいと思う。

委員 前回の学校視察で、複式学級でも細かく学ぶ場があるということを見た。今日ビデオで見た2校の複式学級でも、子供同士の学びが良い方向に向かっている状況が見られた。

ただ、1クラスの子供の人数が少なくなると、切磋琢磨していく環境にはな

りにくいので、子供同士ということを見ると、ある程度の人数は必要になると思う。

委員 今回2番目のビデオで見た1・2年生の複式学級では、1年生と2年生との間に仕切りがあったが、集中して授業を受けるには、子供が幼すぎるように見受けられた。先生が別の学年の子を指導する間接授業が進めにくいような状況下では、複式学級と単式学級での子供達の理解度に差が出るように思えた。

委員 1クラスの子供の数が多すぎる場合では、先生の日や手が行き届かなくなる子供が出てくると思われる。人間同士のコミュニケーションが出来ていると、その子が社会に出て行ったときにしっかりやっつけていけるが、今は大人とのコミュニケーションがうまくできない子供が多いように思う。

保育所でも小学校での複式学級と同じように、異年齢の子供を一緒に保育するという仕組みがあるが、その異年齢保育でも子供同士でうまくコミュニケーションを取っていることも見受けられる。授業での発表機会が多くなる少人数での授業は、子供達に力がついてくるように思える。

現代は発達障害の子が増えているように思えるが、今回のビデオでもそういう子供が授業に集中するために、複式学級の教室に仕切りが設けられているのかと見受けられた。発達障害の問題については、小さい頃からしっかりと取り組んでいくことが大切で、場合によっては引きこもりにつながる事となる。複式学級では子供達1人1人を把握しやすいというメリットがある。複式学級で教える先生を育成するという課題は残るが、少人数のメリットを生かしていく方向は必要だと思う。

1学年に1人だけというのはさすがに問題だが、高学年の子供と下の学年の子供とが教え合えるという環境は大事だ。

委員 複式学級、単式学級ともに、メリット・デメリットがあり、教える先生にも色々と苦勞があるのが良く分かった。

委員 今回、複式学級、単式学級の現実としての良し悪しということを取り上げていかねばならないのは仕方のないことだが、複式学級が本当に理想に近いのかと言えば、教える先生の力量にもよるものだと思う。また、3・4年生の授業が比較的うまくいっていたのは、それまで長い間複式学級で子供達が授業を行ってきた積み重ねがあるからで、1・2年生ではそれが乏しいため、児童にとっても複式学級での経験を積み重ねていくことが必要となる。

1・2年生学級の間にあった仕切りは、複式学級としては本当は不適切なのだろうが、状況からすれば止むを得ないのだろう。これがもし単式学級であれば、どういった取り扱いとなるのか、考えさせられるところはある。

単式学級の授業は、逆に単式でのメリットを生かしきれてないようにも見受けられた。単純に複式学級、単式学級のどちらがいいというような視点で見るべきではない。

委員 私の子供は1クラスで2人だけのときがあったが、地域のつながりがあった。2人だけで色々と苦しいときもあったようだが、先生の力添えもあり、友達とも協力し合い、学校全体で育ててくれたように思う。この学年を超えたつなが

りは、決してマイナスにはならなかったと思う。

委員 1・2年生の複式学級では、1つ年の違う子供達と一緒に勉強するわけだが、発達具合の違う子供達と一緒に学ぶので、心配なところがある。教育の中では、互いに切磋琢磨する環境がないとうまくいかないのではないか。複式学級ですとと同じ子供達とすれば、新鮮さがなくなる。複式学級が良くないということではないが、競争は必要だと思う。

委員 児童・生徒がコミュニケーションを取っていくためには、ある程度の人数は必要。単式学級でも、20人台、30人台などと違いはある。

また、十分考慮しないといけないのは子供達の通学の距離・時間であり、それは小学生・中学生にとってそれぞれ無理のないものでないといけない。それをもってクラスの人数を考えていくべきだと思う。

(3) 庄原市内小中学校の規模・配置の現状について(良い面・課題等)

議長 まずは学校の「規模」という面から意見ををお願いしたい。

委員 学校の規模という面では、各学校における望ましい教職員の数という側面もあるが、私は1学年で複数学級が望ましいと思う。1学年で1学級では、児童・生徒のコミュニケーションという面で望ましくない。

市教委としても、教職員の数という問題も認識されていると思うので、その点も念頭に置いて進めてもらいたい。

委員 学校の規模だけで言うとそういった話となるのかもしれないが、これに配置のことが絡んできて総括的に考えないといけなくなる。ただ、現状としてどういう学校の規模が望ましいのかということを考えておく必要がある。

委員 中学校においては、すべての教科の教員が各学校に配置されることが望ましく、1学年2クラスでは難しいだろう。さらに部活動のことも考えると、1学年4クラスが望ましいと考える。

委員 現在、庄原市内の中学校では、教員が揃っていないということか？

事務局 中学校では学習教科が9教科あり、常勤の教員で足りない学校は、非常勤の教員を配置し補足している。

また、教頭が担任を兼務している小学校が3校あり、これも課題であると認識している。

委員 小学校で教頭が担任を兼務するのは、学校経営の面で厳しいようにも思える。複式学級の良さがあるじゃないかと言われる方もいらっしゃるが、それはこれまでの積み重ねがあつてのもの。担任を兼務する教頭の労力は非常に重いだろう。

委員 第1回の会議でも説明があつたのだろうが、この適正配置検討委員会では、

どこまでの結論を求めていくものなのか。複式学級、単式学級にも色々な考え方があある。それをどこまでまとめていけばいいのか。それがはっきりしたら、こちらにも意見を言いやすいのだが。

事務局 この委員会からの提言では、適正配置の対象校を具体的に決定するようなことはない。現在、国が示している方針どおりの学校規模だと庄原市の小学校では2校しかない。本市の実情を踏まえ、通学の距離・時間などの要素、地域の事情などを考慮した上で、市内の小・中学校についてどのような規模・配置が望ましいのかを提言していただきたいと考えている。

議長 今回、市教委から本委員会に受けた依頼内容は、先ほど説明のあったとおりで依頼文書にも記されていることだが、学級の大きさをうんぬんだけではなく、教職員の数や通学のことなどあらゆる要素を考慮して、そのあり方を決めていくものである。

本委員会では、あり方を示すだけで、それ以上のことを決定するものではない。細かいことについては、これから市教委で決めていくことである。

私はこれまで本委員会と同様の依頼を受けてきたことがあるが、結論として本委員会の提言に2つ以上のことを併記することもあると思っている。

委員 私はほとんど教育現場での経験はないが、学校視察やビデオで見た授業の様子なども含めて考えると、今後は1学年1クラスを維持していくべきと思う。それでも複式学級を行うことに反対する気はないが、意見交流がしっかりできる人数の単式学級が望ましいと考える。

委員 私も同様に思う。将来に亘り、単式学級を確保していくことが望ましい。だからと言って複式学級が悪いわけではなく、複式学級でのこれまでににおける一定の成果を認めつつ、今後は単式学級へ向かうというのが望ましいと思う。

加えて子供達の通学距離も精査して、適正なものにしていく必要がある。

議長 庄原市の現状として、学校規模の面での課題をどのように感じておられるか、各委員に伺いたい。

先ほど発達障害のある子供達の話もあったが、学校規模が大きくなると、そういった子供達に対する配慮の面でも課題が生じると思われるが、そういった面でも意見をいただきたい。

委員 文部科学省は、子供達の通学時間を概ね1時間以内となるようにすべきと手引きで示していたと思うが、冬場のことも踏まえて考えていただきたい。

委員 子供達への影響を考慮して対応すべきだ。

委員 クラブ活動については、子供の人数が集まれば活動しやすくなるが、通学時間が長くなり過ぎると、活動時間が制限されてしまうので、その点も考慮していただきたい。

委員 学級や学校の規模のことをまず決め、その次に配置のことを考えるべき。

- 委員 1 学年 1 クラスという基準では、多くの学校に統合しなさいと言っているのと同じ。国の適正配置の基準は、庄原市には合わないと思われる。
国の基準のような、広島県が定める適正配置の基準というものはないのか。
- 事務局 広島県が定める基準は、県立高等学校のものはあるが、市立等の小中学校のものはない。
- 議長 学校の配置から考えると、通学やクラブ活動などの問題が生じる。現実問題として、子供達の気持ち、地域コミュニティのこと等、色々な要素を提言の中に盛り込んでいければと思う。そのための材料を委員の皆さんから出していただきたい。
- 委員 今日の社会では、グローバルな社会に出て行く子もいると思うが、地域の中で育っていく子供達のこととも考慮していただきたい。
- 議長 続いて学校の「配置」という面からご意見をお願いしたい。
- 委員 現在の学校配置について、市教委では市内の学校において複式学級・単式学級での、子供達の学力差が出ていると見受けられているか？
- 事務局 複式学級・単式学級だからという理由での学力差は見受けられない。
- 委員 複式学級・単式学級での学力差について、学力テストで見受けられる差というのはそもそもあってはいけないこと。その差が出ないように教育現場では努力している。これから求められるのは子供達の「実力」であり、コミュニケーション能力などであろうと思う。複式学級ではそういったところで難しさがあるのではないかと感じている。
- 委員 複式学級では児童の前に立って教える子がいたが、そういった子に統率力が備わってくるということは考えられないか。
- 委員 小さい集団のリーダーと、大きい集団のリーダーとでは、やはり質的に違うと思われる。多人数のリーダーの方がリーダー性を発揮している実態はあると思う。
- 委員 複式学級でも、5、6年生になってくると、間接指導や直接指導の流れをよく理解できるようになり、機能してくる。単式学級であれ複式学級であれ、どこで学んでも同じような力を身に付けることができる環境を実現していくべきだ。
- 委員 前回までの会議でも、わざわざ学区外の学校に子供を通学させる保護者がいるという話が出たが、これは学校の規模のことを重視している保護者がいるという証でもある。小規模校での教員配置の課題は本日初めて知ることができた。

保護者としては単式学級を基本として規模を検討し、配置の問題が絡み難しいのであれば複式学級を検討する、といった流れが望ましいと考える。

議長 学校運営上の利点、困難となる点という面でも考えていかねばならない。それぞれの条件という面での話題が少なかったようにも思う。

次回以降の会議では、そういったところも踏まえて進めていきたい。

これまでの意見交換等も含め、意見・質疑あるか。

(意見・質疑なし)

4 その他

- ・ 第4回検討委員会の開催日時等について
平成28年9月14日(水) 午後に決定
- ・ 準備資料について
学校規模による教員の配置要件について示して欲しい

(11:50 終了)